

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 8月3日

【評価実施概要】

事業所番号	2071800037		
法人名	社会福祉法人 敬老園		
事業所名	グループホーム かみやまだ敬老園		
所在地	長野県千曲市大字上山田2871-1 (電話) 026-275-6511		
評価機関名	コスモプランニング株式会社		
所在地	長野市松岡1-35-5		
訪問調査日	平成19年7月18日	評価確定日	平成19年8月27日

【情報提供票より】 (平成 19年 6月 30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 10月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 7人, 非常勤 1人, 常勤換算 7 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1 階建ての	～ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	25,000 円
敷 金	有 (円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	250 円	昼食 400 円
	夕食	350 円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000 円	

(4) 利用者の概要(平成 19年 6月 30日現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護 1	1	要介護 2	4
要介護 3	1	要介護 4	3
要介護 5	0	要支援 2	0
年齢	平均 86.4 歳	最低 77 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人友愛会千曲荘病院、長野赤十字病院、大塚歯科、林歯科
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ふんだんに木を使った重厚な内装が何よりも気持ちを落ち着かせ、居室名も地元の地名を取り入れ、親しみやすい配慮がされている。昼の居間、食堂の大きな丸テーブル、廊下の一角のソファや壁面を使ったミニギャラリー等、居心地のよい場づくりにむけた工夫が随所に見られる。24時間入浴できる天然温泉を引いたお風呂が大きな魅力となっている。毎日朝食後、時には入居者も交え、職員全員で理念の唱和をし、1日の活動意欲を高めている。認知症対応型通所介護が昨年11月から併設されており、人間関係を築きながら馴染み、時間の延長やナイトケアにも対応している。「重度化対応・終末期ケア対応について」の指針も明確にされている。入居者の健康状態に応じて、家族や主治医、管理者が連携をとり、同意書等の文書に対応方法を残している。入居者の通院の付き添いや外出・外食の支援等、要望に合わせ柔軟に対応しており、職員のフォローを受けながら入居者代表が運営推進会議に参加するなど、入居者の気持ちを大切にした支援がされている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	介護計画の見直しについては3ヶ月での見直しに変更されており、状況変化の際の随時の見直しも従来通りされている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価も全員で関わり、新しい評価項目の理解・把握もできており、改善へ向けての見なおしも行っている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回実施されている。職員のフォローを受けながら入居者代表も参加している。地域や行政の代表者等のメンバーにホームの活動状況等が報告され、意見交換もしている。開催報告書を作成し、家族や介護相談員にも配布しており、感想、意見等を聞き、検討・改善へと繋げている。避難訓練には運営推進会議のメンバーにも参加していただいている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の来訪時には日頃の状況を伝えたり、日課表等を見て頂いている。毎月の家族への書面連絡や、必要に応じて電話報告等も行われている。家族会が年2回開催されており、キーパーソンに限らず家族の参加も多く、報告書も詳細に作成されている。重要事項説明書に第三者委員、苦情受付窓口が明記されている。玄関には、苦情受付箱も設置されている。家族の意見・要望・苦情等を課題として、サービスの質の向上へと前向きに取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域のお祭りや文化祭には入居者と職員共に積極的に参加している。近くの児童館の小学生や市社会福祉協議会のサマーチャレンジの中学生との交流もしている。運営推進会議の委員や、広報紙などから情報を頂き、地域の一員として暮らし続けるための活動に取り組んでいる。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	三項目からなる法人の理念を基に、「皆仲良く、健康で、一日一日を大切に」というホーム独自のわかり易い理念をつくり上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日朝食後、時には入居者も交え、職員全員で理念の唱和をし、1日の活動意欲を高めている。「今日一日を無事で十分な介護が出来れば明日に繋がる」という職員自身の思い入れを日々実践に繋げている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のお祭りや文化祭には入居者と職員共に積極的に参加している。近くの児童館の小学生や市社会福祉協議会のサマーチャレンジの中学生との交流もしている。運営推進会議の委員や、広報紙などから情報を頂き、地域の一員として暮らし続けるための活動に取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員が評価の意義・目的を十分理解している。今回の自己評価も全員で関わり、新しい評価項目の把握もできており、改善へ向けての見なおしも行っている。		

グループホームかみやまだ敬老園

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回実施されている。職員のフォローを受けながら入居者代表も参加している。地域や行政の代表者他のメンバーにホームの活動状況等が報告されている。開催報告書を作成し、家族や介護相談員にも配布しており、感想、意見等を聞き入れ、検討・改善へと繋げている。	○	定期的に運営推進会議が開かれておりホームからの働きかけも積極的にされている。更に地域密着のために議題を絞り込み、要望、質問、意見を受けつけ、双方向的な会議となるよう配慮していただきたい。また、参加メンバーにはホームの課題についてのモニター役としても協力をお願いしていただきたい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市主催の介護施設交流部会が2ヶ月に一度開催されており参加している。市高齢福祉課召集会議には必ず出席し情報交換もしている。市から派遣される介護相談員の受け入れも毎月実施されており、ホームの状況が伝えられている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時には日頃の状況を伝えたり、日課表等を見て頂いている。毎月の家族への書面連絡や、必要に応じて電話報告等も行われている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会が年2回開催されており、キーパーソンに限らず家族の参加も多く、報告書も詳細に作成されている。重要事項説明書に第三者委員、苦情受付窓口が明記されている。玄関には、苦情受付箱も設置されている。家族の意見・要望・苦情等を課題として、サービスの質の向上へと前向きに取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来、管理者の異動はなく、入居者や家族からの信頼も厚い。職員の交代も少ない。法人内異動等、交代必要時は新旧交代者が重複勤務をし、入居者や家族等への状況説明も詳細にし、納得を得ている。		

グループホームかみやまだ敬老園

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の中に教育部が設置されており、年間研修計画が組まれている。外部講師による研修会も実施されており、内容も多彩である。勤務調整を図りながら、希望研修にも参加出来るようになっており、研修報告もミーティング時にされている。各職員は法人内の各種委員会に必ず参加することになっており、自己啓発にも繋がっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症高齢者の勉強会や会議、市主催の事業施設部会・交流会に管理者と職員が出席している。市内のグループホーム間での協議会開催の予定もある。	○	市内のグループホームの協議会の開催が予定されているが、人的、時間的な余裕ができれば、出来るだけ多くの職員が交替で参加し、地域全体のサービス水準の向上にも繋がるようになることを期待したい。
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	認知症対応型通所介護が昨年11月から併設されており、人間関係を築きながら馴染み、安心へと繋げようとしている。通常は「お験し」として、家族や親しい人同伴でホームの様子を見学していただきながら、徐々に慣れるような配慮がされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	訪問調査当日も職員は入居者とともに調理、配膳、下膳等を行っていた。入居者一人ひとりの特徴を細かく把握し、理念の中にある「仲良く」を節度をもって謙虚に行っている。入居者の尊厳を大切にし、人生の先輩としての場面づくりや声かけをしていることが垣間見られた。		

グループホームかみやまだ敬老園

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ホーム入居時には「年代別の背景」等、詳細なアセスメントがされている。入居後も本人の希望を重視し、職員からの押し付けや無理強いをしないことを前提にし、日々職員間での連携を取って対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントを重視し、「個人別サービス日課表」他で日常把握したことを、夜勤者から日勤者への引継ぎ時に話し合い、月1回の定例会議等で改善策も考え、プラン作りへと繋げている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月に一回見直しがされている。毎月の定例会議にてプランの確認をし、状況変化の際は随時見直しがされている。介護計画書は家族にも説明がされており、家族の押印も確認できた。介護計画書は各入居者毎のファイルに綴じられており、いつでも必要事項の提供が出来るようになっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	昨年11月より認知症対応型通所介護も実施されており、時間の延長やナイトケアにも対応している。入居者の通院の付き添いや外出・外食の支援等、要望に合わせ柔軟に対応できている。		

グループホームかみやまだ敬老園


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は入居者や家族と相談の上決めている。通院に際しては原則として家族同伴であるが、日頃の状態が記録にまとめられており、持参して頂いている。緊急時は、職員が付き添う体制になっている。同じ法人内クリニックの医師による月1回の往診も定例化している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化対応・終末期ケア対応について」の指針も明確にされている。入居者の健康状態に応じて、その都度家族や、主治医、管理者が連携をとり、同意書等の文書に対応方法を残している。管理者、職員間の意思統一も図られている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「個人情報の取扱いに関する同意書」が入居者、家族と取り交わされている。職員も入居者の尊厳を守ることを十分理解しており、声かけにも配慮が見られた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者本人の気持ちを大切に、入居者のペースに沿って暮らしが営まれている。職員も各入居者の経験や趣味等を十分把握しており、見守りながら一緒に生活を送っている。		

グループホームかみやまだ敬老園

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は決まっているが、季節の食材により臨機応変に変えている。訪問調査当日も入居者に合わせ食べやすいものに代替し対応されている光景も見られた。入居者は味付けや準備、片付けをお互いに確認しながら行っている。当番制で「いただきます」等の発声もしていたが、無理強いされたものでなく、自然の流れの中で行われていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	天然温泉を引いたお風呂なので、日中、夕方、就寝前と入居者の生活習慣にそったいろいろな対応が可能である。入居者の気持ちを大切にしたい支援がされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作りや菜園の管理、歌をうたったり、風船バレーに興ずる等、入居者の得意分野で一人ひとりの力を発揮できるように場面づくりがされている。自分の役割として毎日されている事は、職員がそれとなく周りにも配慮し、日々の暮らしの中で張り合いがもてるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	杏や桜の花見、近くの文化会館のコンサートなどに出かけている。天気の良い日は散歩や近隣のドライブ、買い物等にも職員とともに外出している。お茶の時間には外のテーブルを使用し、手入れの行き届いた庭の樹木や花を見て楽しむこともある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関や和風の広縁の硝子戸には鍵はかけられていない。外出傾向のある入居者にも居室を訪れた際にさりげなく声かけしたり、移動時に見守りし、安全に過ごせるよう配慮している。		

グループホームかみやまだ敬老園

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練が実施されている。近隣の住民への協力依頼もしており、運営推進会議のメンバーも参加していただくようになった。非常時用のヘルメット、手拭、タオル等も食堂横の所定の場所に備え付けられている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	「個人別サービス日課表」に食事量や水分量の摂取状況が記録され、週間で把握できるようになっており、職員間でも情報を共有している。摂取量の少ない時は、おにぎり、お粥、麺類の提供等で食が進むよう工夫している。献立は法人本部の栄養士が立てており、入居者の好みを把握し、栄養バランスにも配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ふんだんに木を使った重厚な内装が何よりも気持ちを落ち着かせる。トイレ等にも判りやすい表示がされており、居室名も地元の地名を取り入れ親しみやすい配慮がされている。畳の居間、食堂の大きな丸テーブル、廊下の一角のソファや壁面を使ったミニギャラリー等、居心地のよい場づくりにむけた工夫が見られる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスや椅子など住み慣れた家庭で使用されていた物が持ちこまれている。冬場にはこたつを持ち込まれる入居者もいる。居室の壁には家族との写真や自分で描かれた草花の絵、墨痕あざやかな書などがはられ、落ち着いて安心して過ごすための環境作りがされている。		

※  は、重点項目。